

シグマ研究委員会

核データニュース検討小委員会議事録

1. 日 時 昭和59年9月10日(月) 13:30~16:30
2. 場 所 法政大学 80年館7階小会議室
3. 出席者 中嶋(法大), 喜多尾(放医研), 吉田(NAIG),
中川, 浅見(原研)

4. 議 事

1. 経緯説明

浅見氏からこの検討小委員会が設けられるに至った経緯ならびに討議すべき事項, 答申書の作成などについて説明があった。

2. 核データ利用のための広報活動

この小委員会の当面の目的は「核データニュース」の編集発行についての改善策を検討することであるが, 広報活動をより有効に充実させると云う観点から先ず討議が行われた。

「核データニュース」の編集・発行の現状・問題点, JNDCニュースへと改題した経緯, シグマ研究委員会内での情報交換・流通の現状・問題点等について浅見氏から概要の説明があり, 討議を行った。その結果, 核データセンターから配布している情報・資料等の大半を「核データニュース」誌で扱うのは実際的でないことから検討の対象外とした。また, JNDCニュースとしての役割が薄くなっていることの指摘があり, シグマ委内の情報流通にも重点をおくことにした。

3. 核データニュースの改善策

討議の結果, 合意がえられた主な事項は次の通りである。

- 国際会議等の報告は学会誌にまかせ, 核データニュースの「話題」欄では裏話などくだけた内容のものとする。
- 「シグマ委員会」の項目を設け, WG活動の紹介を毎号掲載する。核

データセンターの活動もWGと同様に扱う。

- WG等の会合の開催状況と議題（案内状にあるものを機械的に）をのせる。
- シグマ委の議事録をそのまま掲載するのは適当でないので、まとめるなどして投稿して貰う。
- 編集委員会を設ける。核データセンター2名他に3～4名で構成する。委員の分布には機関（大学・民間など）、専門（核データ評価、炉物理、特殊核データなど）を考慮し、交替は半数ずつ行う。
- 発行は年4回は無理なので、年3回とし、定期発行を確実に守るようにする。発行時期は、学会・研究会・シンポジウムの時期も考慮して毎年5月、9月、1月とする。編集会議を発行時に年3回開く。
- 資料紹介もできるだけ扱うようにする。その都度、編集会議で決める。
- 巻頭言は毎号のせる必要はないが、できるだけ扱う方向で考える。毎回の編集会議で決める。
- 文献リストには核データセンターで入手したJAERIレポート、JAERI-M、JAERI-memo類も含める。その他の国内の論文・レポート等についても情報を入手する手立てを何れ検討する。
- 誌版は従来通りB5版とし、印刷の際に縮小しないで済むように配慮する。現在使用している活字に検討の余地がある。
- シグマ委の組織図を毎号のせておく。
- 行事予定（カレンダー）が機械的に作成できるようにする。
- 本年の研究会で行うポスターセッションの説明書き（英文）の和訳をそのまま掲載する。
- テクニカル・レポート、作業ノートなど学術論文的なものは現在設けている紙面をより有効に利用して貰うために、もっと明確なアナウンスを毎号のせる。
- 配布名簿の改訂を機械的に行えるようにする。

これらの意見・議論をもとに、浅見氏が答申書の原案を次回までに作成することになった。また、次回で答申書を作成し、本小委員会を終了することとし

た。なお、できれば次回の案内状とともに答申書の原案を配布し、事前に検討して貰うことにした。

次回は10月11日（木） 午後，原研本部で行う予定。